

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100899		
法人名	社会福祉法人 賛幸会		
事業所名	グループホーム はまゆうの里 A B		
所在地	鳥取市 服部 204-1		
自己評価作成日	平成23年9月6日	評価結果市町村受理日	平成23年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://15.ocn.ne.jp/~hamayu/">http://15.ocn.ne.jp/~hamayu/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市 湖山町東 2丁目 164番地		
訪問調査日	平成23年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、のどかな田園風景の中に建ち、田んぼや、畑を眺めながら生活し、いつでも季節を感じる事が出来る。隣接する診療所の医師による定期往診や24時間のONコール体制での医学的管理に加え、訪問看護ステーションの看護師による定期的訪問で医療との連携が図られている。また、みなみ歯科医院の訪問診療も受けることが出来る。ご利用者様自身の持っている力を存分に発揮していただき、毎日楽しく、生き生きと過ごせるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

扇ノ山の山なみを仰ぐ、緑につつまれた田園風景の中、ひとびとの優しさと医療・福祉を提供するコミュニティ「はまゆう」があり、よりそう家「グループホーム はまゆうの里」があります。ホーム独自の理念が掲げられ、家庭的な環境の下、利用者一人ひとりが安心と尊厳をもって、健康で自立した生活が出来るよう支援されています。尚、通所サービスも提供され、地域に密着した施設となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ご利用者様の意思を尊重し、毎日が楽しく生活できるよう理念に掲げ支援させていただいている。また、地域の方との繋がりや交流で、地域の方への理解を深めている。	グループホームの運営理念を職員間で共有され、利用者の意見を尊重し、楽しく健康的な生活が送れるよう支援されている。また法人の理念も、毎週の朝礼時に唱和され、意識づけがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣スーパーへ買い物に出掛けたり、中学校の運動会に参加したり、幼稚園の訪問を行っている。また、公民館カラオケ教室にも参加した。	日常的に買い物や散歩に出掛けたり、敷地内の畑には近所の方が手入れに訪れたりしている。また中学校の運動会への参加や、小学校・幼稚園への訪問が行われ、自治会行事、婦人会の障子貼りにも参加され、交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室を行ったり、地域住民を対象とした勉強会にも職員は出来る限り参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度行っている。活動報告を写真を見ていただきながら行っている。参加者から貴重な意見を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議では、行事報告、活動報告、研修勉強会の参加報告が行われ、参加メンバーからの意見、要望を受け、双方向的な話し合いがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールやFAXでのやり取り等で連携を図っている。	市町村の担当者に運営推進会議のメンバーになって貰われ、アドバイスを受けられている。メールやFAXで常に情報交換がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の理念に掲げ、全体で取り組んでいる。	法人の理念も掲げられ、身体拘束をしないケアを実践されている。門扉は防犯上施錠されているが、玄関、敷地内は自由に出入りができ、外出を希望される場合は、職員が付き添われ見守りされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、高齢者虐待防止についての勉強会を開催し学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年、権利擁護についての勉強会を開催し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員より詳しく説明させていただき、承諾のサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年アンケートを実施し、そこで出た意見を日頃のケアに反映させている。	アンケートでは、職員の対応、食事、ケアプラン、医療、生活環境等についての意見をもらわれ、運営に反映されている。面会は随時受け付けられ、行事、食事会への案内も積極的になされ、家族等との連携を密にされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と週一度昼食を共にし、話をする機会を設けている。また、スタッフ会議の議事録を確認してもらっている。	管理者と職員は週一度昼食を共にされ、話や要望を聞く機会が設けられている。スタッフ会議では、課題、要望について意見交換がなされ、その内容は回覧され、職員間で共有されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価を行い、上司も評価を行っている。職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、トレード研修を行っている。施設外で行われる研修にも参加している。OJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームの管理者で3ヶ月に1度集まり情報交換を行っている。良い意見は取り入れている。グループホーム相互研修には毎年参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人にお会いし、心身の状態や、思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の苦労や、今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について、ゆっくりと聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から相談を受けた時、本人やご家族の思いや状況等を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるご利用者様から生活の技や生活文化の大切さを教えてもらう場面を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族様の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や築きの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために、ご家族様と同じような思い出支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会は受けつけている。馴染みの場所にドライブに出かけたりしている。	利用者個人の馴染みの人との面会はいつでも受け付けられ、自宅や実家へのふるさと訪問の支援もされている。墓参りなどは家族の協力を得ながら支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりが孤立しないよう、職員はフォローしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時など、お見舞いに行かせて頂いたり、電話で様子を聞いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様との日々の会話から思いや意向を聞き取るよう努めている。ご家族様からも思いや意向を聞き、ケアに反映させている。	本人との日々のかかわりの中での声掛け、思いの把握に努められ、一人ひとりの希望に沿えるよう努力されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人やご家族様にお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテの経過記録、ケース記録用紙を設け、日々記録し、職員間で情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開催し本人の意向に沿ったケアが出来るよう話し合いの場を設けている。家族面談を定期的に行ったり、面会時にご家族の意向を伺いケアプランに反映させている。	本人や家族には日々のかかわりの中で思いや意見を聞き反映するようにされている。家族面談が定期的に行われ、3ヶ月に1度見直しをされている。ケアカンファレンスを開き、職員全員で本人の意向に沿ったケアプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	3ヶ月に1度は必ず見直しを行っている。急な変化があった場合は、ご家族様に先に伝えられている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内には多職種のスタッフが存在している為、その時々で専門のスタッフに相談し、アドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、市の職員等から、地域資源の情報収集、把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する診療所の医師による定期的訪問、24時間のONコール体制での医学的管理を行ってもらっている。	受診は、隣接する診療所の医師により定期的に行われている。24時間のONコール体制での医学的管理が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師と連携をはかり、日頃、気づいた事は何でも相談している。さらに、老健、特養の看護師の協力も得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は入居中の身体状況等を病院に情報提供している。また、入院中にはお見舞いに行き、本人、病院関係者、家族から様子を聞くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前指示書にて、本人・ご家族様の意向を聞いた上、早めにカンファレンスを行なっている。重度化や見取りについての対応、医療との連携体制の説明を行い、同意を得ている。	重度化に伴う事前指示書が作成され、事業所の対応しうる最大のケアについて説明が行われている。また、状態の変わるごとに、家族の気持ちの変化や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成している。勉強会を行い、急変時、事故発生時に即対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内では、年に2回避難訓練を実施している。地域の消防団に参加していただき、訓練を行なった。グループホーム独自に毎月避難訓練を行なっている。	年2回法人内で避難訓練が実施されている。また地域の消防団に参加して貰われている。グループホーム独自の訓練も行われており、職員が可能な限り対応し得るマニュアルも作成されている。	夜間を想定しての手順を職員間で共有され、さらに充実されることを期待致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さりげない言葉掛け、対応に配慮してご利用者様のプライバシーを損ねないよう気をつけている。知りえた情報は外部に漏らさない。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図られている。またミーティングの折には、職員の意識向上に繋げるよう努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人ひとりが出来る事を見つけ、出来る事は行なってもらっている。ご利用者と過ごす時間を通して希望、関心、嗜好を見極め、ご本人様が選びやすい場面作りに努めている。ご本人様が決断できるようさりげない声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様がしたいことを把握し、中心となって過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡をみて身だしなみを整えたり、自分自身で着たい服を選べれるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に食材の買い物、食事作りはご利用者様と一緒に進んでいる。片付けもご利用者の役割の中の1つとなっている。	食材の買い出し、食事作り、後片付けは利用者と共に進んでいる。献立は旬の食材を中心に、隣接老健の管理栄養士のアドバイスを受け作成されている。誕生日メニュー、外食ツアーなど、気分を変えて楽しめる工夫をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスを考え、また、ご利用者様の食べたい物や旬のものをメニューに取り入れている。1日の食事・水分摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっている。うがい、義歯のブラッシング等、出来る限り自分で行なってもらい、出来ない部分を介助している。義歯洗浄剤も使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やパットの使用量を減らす為、1人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導の必要な方には声掛けを行なっている。また、カンファレンス等でパットの種類が適しているかも検討している。	一人ひとりの排泄のパターンを把握され、トイレ誘導の必要な利用者には声掛けが行われている。またカンファレンス等で、パットの種類を検討され、プライドを傷つけないよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂取していただくこと、運動を行なう事を心掛けている。便秘の方には、きな粉牛乳をお出ししたり、起床時の冷水や飲むヨーグルトを飲用していただいたり、ヨーグルトを摂取していただいたりと個別に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1度は入浴していただけるよう声を掛けている。いつでも希望された時には対応している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせ、2日に1度は入浴出来るよう声掛けがされている。また、希望があれば、いつでも対応されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	緊張や不安を取り除き、安心して心身が休めるように支援している。本人の希望を聞きながら昼寝の時間を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのご利用者様が内服している薬の内容を把握し、服薬支援を行なうと同時に、内服後の様子観察も行い、変化に応じて主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様1人ひとりの生活歴や、特技を活かした役割づくりを行なっている。また、毎日を楽しく過ごしていただけるよう、レクリエーションを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの中だけで過ごすことが無い様に買い物や散歩、ドライブ等で外出の機会を設けている。外食ツアー、花見、リンゴ狩り等にも出かけている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援されている。外食ツアー、花見、リンゴ狩り等は、利用者が楽しみにされ、喜びのある日々を過ごせるような気分転換等の支援となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額だが数人の方には自分で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の希望があればいつでも電話を掛けれるよう支援している。また、家族からの電話も取り次ぎ、本人と話をしてもらうようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には写真を飾ったり、ご利用者様の作品を飾ったりしている。施設内は混乱を招かないよう配慮している。ご利用者様同士がゆったりと過ごせる空間作りに努めている。	玄関や共用の空間には、利用者の作品や季節の飾りが飾られている。また、トイレの横には椅子が備え付けられ、そのスペースは利用者のコミュニケーションの場となっている。中庭には植栽、花壇が作られ、四季の移り変わりを楽しむことができる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外に、テレビを見ながらくつろげるソファを設置したり、畳コーナーもあり、ご利用者様が思い思いに過ごせる空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や趣味の作品や仏壇など、ご利用者様が大切にしている物を持ち込まれていて、その人らしく、落ち着いて過ごせるよう支援している。	居室は、清潔に配慮され、健康で快適な空間作りを心がけられている。利用者の身体状況に合わせて、その人らしく居心地良く過ごせるような工夫がされ、写真や趣味の作品、本人が大切にされている物が持ち込まれてい	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの身体状況に応じて、安全に作業ができるよう工夫している。場所の表示を行い、自立した生活を送っていただけるよう支援している。		

### 目標達成計画

作成日：平成 23 年 10 月 20 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	災害対策について一部職員が夜間におけるマニュアルの把握が出来ていなかった。	全職員がマニュアルの把握ができる。	全職員を対象にマニュアル読み合わせを実施する。管理場所を伝達し周知徹底に取り組む。	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。